

NPOの法人が (株)に衣替え

医療教育に取り組む福岡市の「薫陶塾」

“非営利”発展的に解消

医療現場のコミュニケーション教育に取り組んできた福岡市の特定非営利活動法人(NPO法人)「薫陶塾」がこのほど解散し、株式会社として新たにスタートした。インフォームドコンセント(十分な説明と同意)の浸透などで医師のコミュニケーション能力が重視され、研修の要請が増加。経営基盤を強化し、事業を拡大するのが狙い。内閣府によると、全国で約一万四千七百団体のNPO法人が活動しているが、解散して株式会社となるケースは「極めて珍しい」という。



薫陶塾が取り組む模擬患者による医療面接実習—昨年7月、長崎県大村市の国立病院長崎医療センター(薫陶塾提供)

需要増え事業拡大 経営基盤強化狙う

薫陶塾は一九九九年 請け負う一方で、模擬に発足。医学生や研修 患者の教育費用などが 医を対象に、模擬患者 かさんだためだ。法人 を使った医療面接(問 理専長だった黒岩かを 診 実習を開き、二〇 〇一年にNPO法人の 中央区は「営利を目的 認証を取得した。 側も受注側も事業に甘 えがあった」と話す。 約三十人が模擬患者と して登録。〇二年度は このため、経営の安 定が前提となり、サー 大学病院などの依頼で ビスの質の高さが求め ウハウを生かし、医療 四十回の派遣研修を行 った。 られる企業への、脱皮 現場のコンサルティ だが、二年間で約九 百万円の赤字となっ の理事会で解散を決 げた」と意気込んで いた。交通費など実費で 定。黒岩さんが資本金 いる。

一千万円を提供し、株 式会社「薫陶塾」を設 立、社長に就任した。 これまで取り組んで

模擬患者

医師を相手に一般の市 民が患者や家族の役割を 演じ、医療面接(問診) のシミュレーションを行 う。病歴だけでなく、患 者の性格や経歴なども詳 細に設定。「薬剤、処置、 手術に次ぐ第4の医療技 術」とされる、医師の対 話能力を患者側の視点か ら検証する。1960年

